

モンシロチョウ

「チョウ目・シロチョウ科」

春の息吹を実感する弥生三月、菜の花も咲き始め、童謡でおなじみのモンシロチョウが飛び交います。生物季節に関心のある人たちは、このチョウがいつ飛び出してくるか、一生懸命観察します。そして最初に見つけると、私たちの地域の初見日はいついつだと言いつつ春の到来を喜びます

◆モンシロチョウは本来ヨーロッパ(アフリカ北部を含む)と西アジアに生息、その後、熱帯を除き、東アジア、北ア

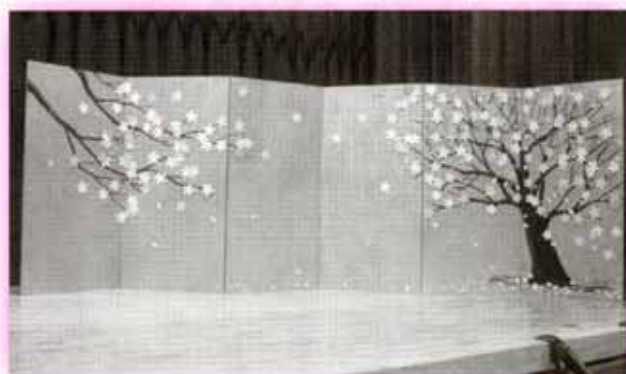


モンシロチョウの成虫(上)と幼虫(下)

メリカ、オセアニアに広がったとの説があります。分類学上はチョウ目(異名は鱗翅目)シロチョウ科ヒエリス属、英名はsmall white、中国名は菜粉蝶とされます◆越生町では成虫は3〜11月に6〜7回の発生と思われまます。但し盛夏の8〜9月は少ない。成虫はキャベツやダイコン、ブロッコリー、ナバナ、ハクサイなどの葉裏に1粒ずつ産卵、数日後に幼虫が孵化し葉を食べ始めます。幼虫はアオムシといわれ、油断すると葉脈を残し食い尽くすので収穫皆無になることがあります。小規模な家庭菜園ではキャベツやハクサイなどに防虫網をかぶせ成虫を侵入させない、産卵させない。大規模産地では定植時に、その植穴に薬剤を入れて幼虫害を防止します◆さて晩秋になり気温が下がってくると、成熟幼虫は近くの枯れ木や板塀、ブロッコリー塀に移動して蛹になり、翌年の春を待ちます。

(平井一男)

おごせ アートミュージアム



この春に越生中学校を巣立った卒業生99名が学校職員と力を合わせて制作した、満開の桜を描いた屏風です。完成までに約9か月間も費やした力作です。先日挙行された第66回卒業証書授与式の席で始めてお披露目されました。みんなの思いがこめられた屏風は、思い出と共に末永く輝き続けることでしょう。

越生中学校

あとがき

今月号の『おごせの人』では、岩手県大槌町で東日本大震災により被災された大森さんご夫妻のインタビューを掲載させていただきました。

大切な人たちを一瞬で亡くす悲しみは、私たちが想像するよりも遥かに深いものでしょう。それでも悲惨な現実を受け止め、前へ進もうとされているお二人の姿には頭が下がりました。

震災のことを思い出すだけでも辛いですが、越生の方たちのお役に立つのであれば、と詳しくお話を聴かせていただきました。本当に感謝しております。ありがとうございました。

(月)

4月の納税

町 県 民 税 随時期
国民健康保険税 随時期
(4月30日まで)

人口と世帯

3月1日現在
()は前月比

総人口 12,573人(-23)
男性 6,274人(-10)
女性 6,299人(-13)
世帯数 4,914世帯(-3)